



能代松陽高の生徒が能代市職員とキャリアを考えたワークショップ

松陽高生 目指す将来像は？

「地域で自立」「人のために」

能代市の能代松陽高校の生徒が、能代市職員らとキャリア形成について話し合うワークショップが同校で開かれた。2年生4人が自身の大切にしたい価値観を見つめ、「この地域で自立する生き方を考えたい」「人と人をつなげる仕事がしたい」など目指す将来像を発表した。

能代市企画ワークショップ

市が企画して14日に開き、出席した18人が2グループに分かれて意見交換。生徒が民間のツールを活用して自身の価値観を掘り下げた。

まず「社会的な評価」や「個性を發揮する」など15種類のカードの中から自分が大切にしたい3種類を選択。その理由とともに、学校で感じたこ

とや進路について「部活のマネジャーを務めており、年上の人と話すことが合っている」「人を助ける仕事に就きたい」などと話した。

市職員はそれぞれ現在の仕事を選んだ経緯を語り、「キャリアは偶然のきっかけで決まることもある。きっかけは待つだけでなく、自分で動き

市職員らと意見交換

つくり出すことも大事」と助言した。

市は国が主導する「若者や女性にも選ばれる地方」づくりに向けて企業などの環境改善を進め、新規高卒者の地元就職率を上げる目標を掲げている。

ワークショップは生徒にキャリア形成への理解を深めてもらい、市の施策立案に生かすため昨年から開催。政府の地域経済分析システム（リーサス）を活用し、若者層の流出や全国の自治体の取り組みについても調べた。東北経済産業局や県信用組合能代支店がリーサスの調査に協力し、今回のワークショップにも出席した。（佐藤辰）